



1 細かい作業をロジカルに！

特集 IT女子力



経済産業省は、2030年までにIT技術者が79万人不足すると試算しています。本校では、来春、県立情報テクノロジー大学校へと進化し、定員も増やして人材育成を進めていきます。ここでは「特集IT女子力」とし女子学生の取組を紹介します。



システムコース2年生の実習で、飛田美優さん(勝田工卒)は、電子回路の設定など細かい作業を丁寧にこなしています。

Q1 この実習は難しくないですか？

A1 課題を整理し、論理的に作業を進めるのであまり難しくないです。

Q2 IT技術をどのように活用しますか？

A2 身近な課題解決に役立てたい。例えば、祖母の部屋のリモコン動作を確認するシステムです。エアコン等設定ミスを防止したい。

本校では少人数制の実習が多く、女子学生もじっくり学び、確かな実践力を身に付けています。

2 県立IT未来高校で出前授業！



出前授業の様子

県立IT未来高校で、本校の郡司先生による出前授業が実施されました。これは高大連携の一環で、基本情報技術者試験を目指す高校生のための学習会となりました。倉橋教頭は「丁寧に教えて頂き、高校生にとっていい刺激になりました」と話されていました。



個別にアドバイスする郡司先生

3 『記事トレ』紹介

本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞朝日新聞(2025年9月1日)

災害時もいつもと変わらぬ食事

●男庭 誠さん(那珂高卒)

◇要約：普段使うような食品も、自然災害時に活用しようとする考えが広まっている。

常温で保存できるミートボールや豆腐など様々な企業が、加工の際の殺菌方法も工夫し、常温での長期保存を可能にしている。

◇感想：災害時は普段と違う生活を強いられるため、不安を感じる人が多い。そのため、普段食べている食品を食べられるようにする工夫は、人々の安心に役立つと思う。

私も災害時に人々を安心させられるようなシステムを作りたい。

●竹内 結さん(日航高卒)

◇感想：災害時は精神的にもパニックになっている可能性が高いため、普段と同じものを食べることで少しでも正常な状態に戻ると思った。

また、栄養価も高いため災害時に生き残る確率が上がるので、この取り組みを推進していくべきだと思う。

●佐藤大輝さん(石岡一高卒)

◇感想：非常食が単なる保存食ではなく、普段の食事と同じ感覚で利用できる点に魅力を感じた。

災害時に困らないよう栄養バランスやアレルギー対応を意識し、日常生活でローリングストックを実践し備える姿勢を持ちたいと思う。



●黒澤麻衣さん(佐和高卒)

◇感想：いつ来るか分からない災害に備えて準備しておかなければならないと思った。実際に被災した方々の意見を取り入れ、非常食開発への取組が行われていることを知った。

私も人に役立つ取組をしたいと思った。

●大森鋼刃さん(太田一高卒)

◇感想：日本は、比較的地震や津波などの災害が多いので、冷蔵品や非常食におけるフェーズフリーなどの考え方を全ての世代に広めたいと思う。

そして、災害が発生しても、冷静に対処し被害を最小限に抑えたい。

